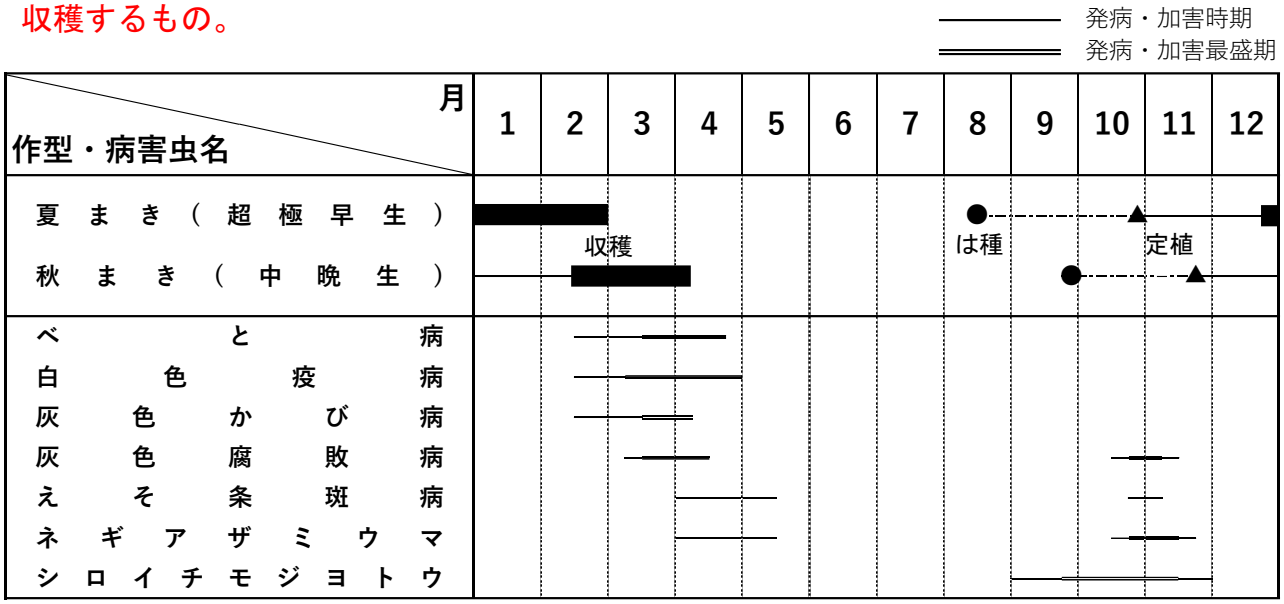
# 葉たまねぎ

農薬取締法上「葉たまねぎ」と「たまねぎ」は別の作物。
「葉たまねぎ」は「たまねぎの比較的若い段階（鱗茎が太り始める頃）の葉及び鱗茎」を収穫するもの。




## べと病

留意事項

1 QoI剤≪１１≫は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

1 排水を良くする。
2 苗床の被害株を除去する。
3 越年り病株は早めに除去する。
4 被害株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
5 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を予防的に散布する。
・ランマンフロアブル ＜２１＞【2000倍　3日／4回】
6 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・アミスター20フロアブル ≪１１≫【2000倍　3日／3回】

## 白色疫病

留意事項

1 1～2月頃温暖で3～4月に冷涼多雨の場合に多発する。

防除方法

1 窒素質肥料の過用を避け、排水を良くする。

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

2 被害株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
3 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を予防的に散布する。
・オーソサイド水和剤80 ＜Ｍ４＞【600倍　7日／5回】

## 灰色かび病

留意事項

1 病原菌の発育適温は気温23℃前後である。

防除方法

1 排水を良くする。
2 被害株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
3 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を予防的に散布する。
・オーソサイド水和剤80 ＜Ｍ４＞【600倍　7日／5回】
4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・ロブラール水和剤 ＜２＞【1000倍　14日／2回】

## 灰色腐敗病

留意事項

1 苗床末期と春期の多湿時に発生が多い。
2 予防的散布が大切である。
3 QoI剤≪１１≫は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

1 窒素質肥料の過用を避け、排水を良くする。
2 被害株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
3 収穫適期を見定め、晴天が続いた後に収穫する。
4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・ロブラール水和剤 ＜２＞【1000倍　14日／2回】
・アミスター20フロアブル ≪１１≫【2000倍　3日／3回】

## えそ条斑病

留意事項

1 病原ウイルスはアイリスイエロースポットウイルス（IYSV）であり、ネギアザミウマによって媒介される。一度ウイルスを獲得したネギアザミウマは死ぬまでウイルスを伝搬する。
2 ねぎ、たまねぎ、にら等のひがんばな科野菜や、トルコギキョウ、アルストロメリア等の花き類で被害が大きい。

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

防除方法

1 媒介昆虫であるネギアザミウマの早期発見・早期防除に努める。（ネギアザミウマの項　参照）

2 発病株の残さは早めに除去し、適切に処分する。

## ネギアザミウマ

留意事項

1 高温少雨時に多発する。

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・ディアナSC ＜５＞【アザミウマ類　2500～5000倍　前日／2回】

## シロイチモジヨトウ

留意事項

1 発生初期の防除を徹底する。

2 葉の内部へ潜り込む前に防除を行う。

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・**ＢＴ剤** ＜１１Ａ＞（Ⅸ野菜類の病害虫　3野菜類　参照）

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。